

水道事業会計(企業会計)

区分	歳入	歳出
収益的収支	10億2,914万円	9億8,133万円
資本的収支	1億7,698万円	3億6,721万円

*収益的収支…水道事業を運営するための収支を表したもの
*資本的収支…配水池の建設や管路の整備など、資産の整備と企業債償還金などの支出、その財源となる収入の収支を表したもの

水道事業会計(企業会計)は、地方公営企業法に基づき設けた水道事業を行う特別会計で、民間企業と同様の経理や決算をします。

特別会計

特別会計名	歳入	歳出
国民健康保険	57億2,713万円	52億3,369万円
後期高齢者医療	4億389万円	3億9,514万円
介護保険	37億9,070万円	37億2,605万円
土地取得	6万円	6万円
農業集落排水事業	1,183万円	1,155万円

特別会計は、市が特定の事業を行うために、一般会計と区別して設けるもので、特別会計ごとに決算を行います。

平成24年度

決算報告

安全安心に暮らせるまちづくりを実施

市相良消防庁舎の建設、榛原文化センター会館棟や静波体育館の耐震補強工事に加え、地区津波防災まちづくり計画策定のためのワークショップを開催するなど、市民生活の安全安心を図る事業を実施しました。

問い合わせ 財政課 藤永 ☎030054

③ 実質公債費比率

18.6%



市(一部事務組合などを含む)の借金の返済額の大きさの割合を示すもの。市の数値は、基準の18%を上回っているため、借金をするには県の許可が必要になりますが、来年度には18%を下回る予定です。ただし、県内最下位の数値であることから、今後も計画的な財政運営が必要です。

④ 将来負担比率

81.2%



市の借金返済や、将来支払わなければならない負担金などの残高の割合を示すもの。この比率が高いほど、将来、財政が圧迫される可能性が高いこととなります。

⑤ 資金不足比率

資金不足なし



事業会計の料金収入に対する資金不足(赤字額)の割合で、経済状況の深刻度を示すもの。市の水道事業と農業集落排水事業については、資金不足はありません。

市の財政は健全

法律により、毎年度財政が健全であるかを判断する基準が示されました。事業の選択や経費削減に努めた結果、平成24年度決算の財政状況は、「**全ての指標で健全である**」と判断されました。

18年度に策定した公債費負担適正化計画を守り、計画的な借入れを実施してきたため、財政が健全であるかを判断する基準である実質公債費比率が、「**計画より1年前倒して、目標の18%未満を達成できる見込み**」です。

① 実質赤字比率

赤字なし



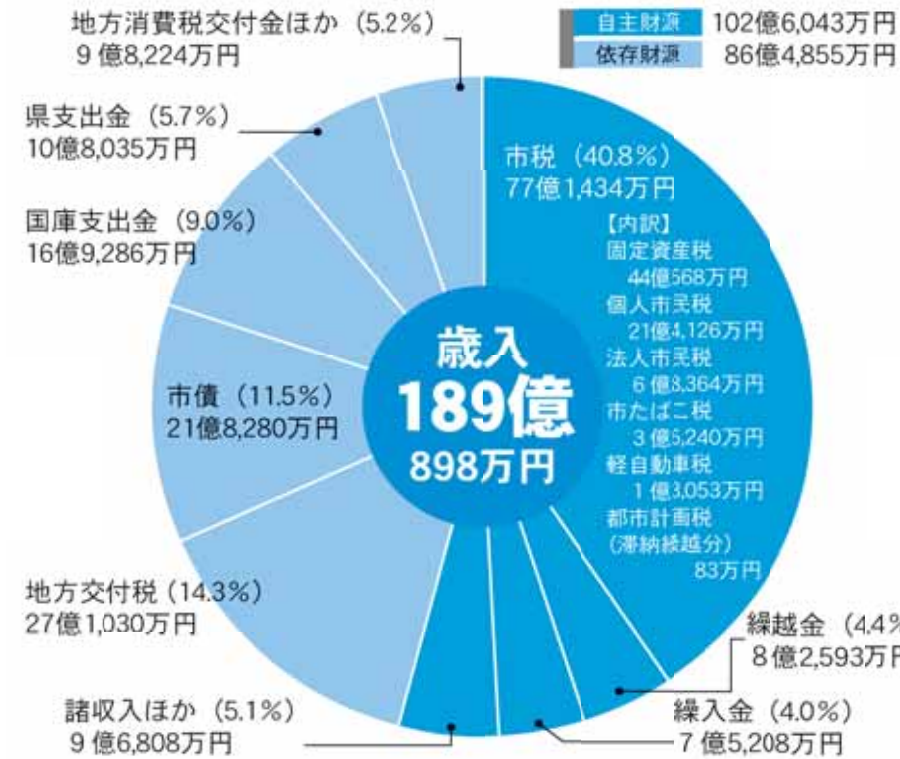
福祉、教育、まちづくりなどを行う市の普通会計(一般会計に土地利用取得特別会計を加えた会計)の赤字の程度を表し、財政運営の悪化の度合いを示すもの。本市は、収入総額が支出総額を上回っている黒字なので、赤字はありません。

② 連結実質赤字比率

赤字なし

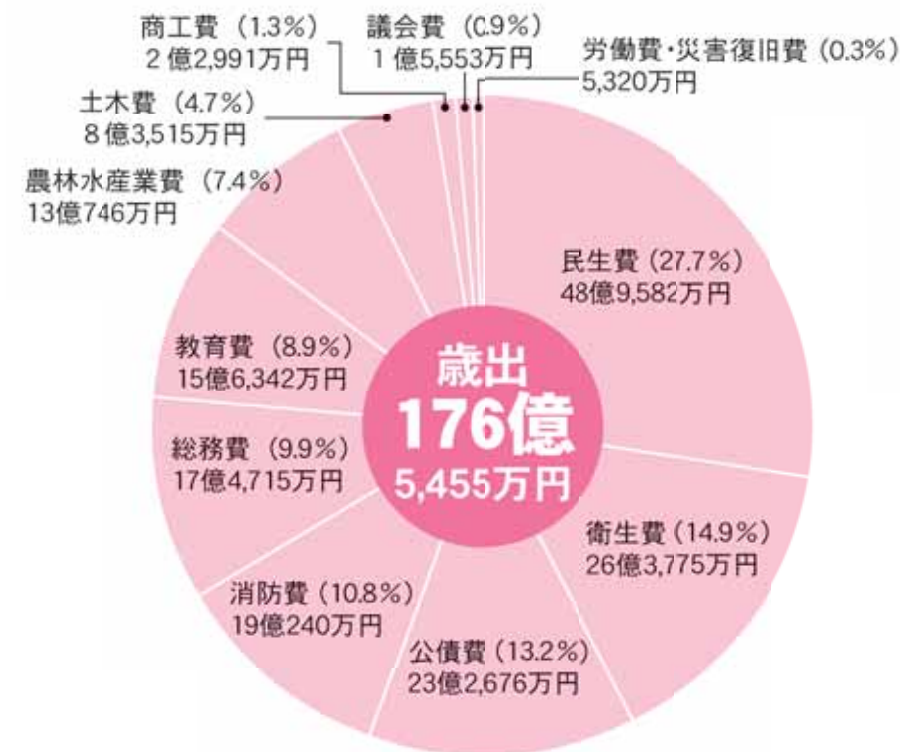


市の全ての会計を合計した収支の赤字の程度を表し、市全体の再生運営の悪化の度合いを示すもの。特別会計や水道事業会計を加えても、①の実質赤字比率と同様に黒字の運営をしているため、赤字はありません。



歳入(収入)
平成24年度一般会計の歳入は189億898万円(前年度比102.7%)となり、歳入の約41%を占める市税のうち、東日本大震災の復興需要や個人消費の回復などに伴い、法人市民税は持ち直し

の傾向がありました。3年に一度の評価替えがあった固定資産税は大幅な減額となり、市税全体では、ここ数年で最も低い決算額になりました。歳入全体では増額となり、特に、市債(借金)については市相良消防庁舎の建設などの消防広域化事業の実施により、増額となりました。



歳出(支出)
歳出は、176億5,455万円(前年度比100.4%)となり、歳入の約93%を占めました。財政調整基金(貯金)積立金の大幅な減額がありました。防犯・防災整備事業や消防広域化事業などにより歳出全体では増額となりました。

公債費(借金の返済)については増額となりましたが、平成18年度に策定した公債費負担適正化計画に基づき、事業を実施しました。今後も歳入に見合った歳出になるよう、健全な財政運営に努めていきます。
*実施した主要事業は、4、5ページを参照。